

# 子どもの気持ちに寄りそう子育てを

—汐見学長と子育てを考える特別講演会より—

(文責) 奈良 勝行

去る4月12日(土)午後、学び舎江戸東京ユネスコクラブは、中央公民館ホールに白梅学園大学の汐見稔幸(しおみ・としゆき)学長をお招きして特別講演会「今日の子育てに必要なことは」を開催しました。当日は約80人の市民の方々が参加。まず渡部会長が開会あいさつし、続いてゲストの小林市長・関口教育長・杉本准教授があいさつ。汐見学長が70分間講演し、休憩をはさんでフロアから質問に学長が答えるという形で進行。質問が約13問におよび、学長が丁寧に答えました。終了後のアンケートの結果では、「大変良かった」が8割を占め、大好評。「もっと聞きたかった」の声が多数ありました。

講演の要旨、質問と答え、感想を簡潔にまとめてみます。

## 【講演(要旨)】

### 1. 人間の発達

「人間」という漢字は、文字通り「人と人之間」の関係を表し、その関係性が豊かになれば幸せになれることを意味している。人類の歴史上、人間は、次の3つのことに重きをおいて発達してきた。

- (1) 「作る」・・・人間は生きるためにものを作ることにこだわり、その方法で多くのことを学んだ。例を挙げれば、「百姓」とはすべてのものを作れるという意味である。
- (2) 「遊び」・・・古来人は遊びにこだわってきた。その遊びをする過程で人はいろいろなことを学んでいった。「遊び⇒ルール作り⇒宗教⇒法律⇒芸術」と発展していった。
- (3) 「交わり」・・・人と人との交わりの中で豊かな人間性を発達させていった。たとえば、子どもたちはお年寄りとの語りあいの中でさまざまなことを学び人間性を育む。

### 2. 「子育て」と「子育て」

「子育て」とは「子育て」が前提で成り立つ営みであり、「子育て」とは、自分の心身の力を伸ばすことを直接の目的としているとは限らない子ども自身の生活行為の中で、子どもの心身の力が結果として育つことである。その子育てが最近大きく変容してきてい



る。次のような事柄である。

- (1) 遊びの面・・・今日、道路等で群れて遊んでいる子は見たことがない。自然の中での遊びからゲーム的遊びへ変容している。
- (2) 家事・仕事の手伝い・・・ほとんどなくなってきている。自覚的に手伝わせる家庭でないと、子どもは失業状態になる。
- (3) 情報の入手・・・本、テレビ、ビデオ、マンガ、ネット等による入手が激増している。
- (4) 欲求の実現・・・遠くに出かける、ほしいものを買える、いろいろな服が着られるといった欲求が簡単に実現できる。そのため自己有能感が変容している。
- (5) 学びの場の多様化・・・習い事が驚くほど増えた。そろばん、公文、習字だけだった段階から、子ども料理教室、サッカー、テニス、卓球、体操等のスポーツ教室、ピアノ、バイオリン、など。
- (6) 子どもの貧困の拡大・・・日本の貧困率は

14.9%になり、世界の中でとても高い国。  
それを国民が自覚していない。

### 3. 「子育て」の新たな困難、課題

以下のような困難・課題が見えてくる

- (1) 遊びとか仕事である程度育ってくれることを前提として子育てをする、という従前のスタイルが成り立たない。
- (2) 身体、心、頭の基礎的なところを、母親だけですべて家庭内で育てなければならない。
- (3) いつも家の中で育てるため、子どものあらゆることが見えてしまい、しかも、母親がしっかり育てないと、というプレッシャーがすごい。子どもに過干渉、お節介にどうしてもなってしまう。
- (4) 母親が中心で、父親の力が必要なのに、長時間労働であまりあてにできない。
- (5) 母親もルールを敷かれて育てられた世代。自分で自分を育てたという感覚よりも、お節介文化の中で育てられたという感覚が強いのので、自分も同じことをしてしまう。



### 4. <子育て>と<子育て>の支援

<子育て支援>と<子育て支援>の双方を射程に  
すえて以下のような支援が必要と考える。

- (1) 気軽に相談できる、子育ての知恵をもらえる場の設置  
世代間交流ができるコミュニティ・カフェ、  
小規模保育園、フィンランドのネウボラなど
- (2) 「駆け込み寺」の設置や空き家の有効活用  
夜働かざるを得ない親、DVから逃げたいと

思っている親、急に実家の親が入院して  
困っている親のため。

- (3) 自由に冒険できる場（プレイセンターな  
ど）や「子ども 110 番」の設置
- (4) 子どもの貧困に立ち向かう施策

学校や授業について行けず、塾にも行  
けない子  
への支援。

自然の中  
で遊んだり、文化  
体験をする  
機会の  
提供。



### 【質問と答えの例】

- ① 子どもを上手に叱るにはどうしたらよいか？  
叱るときには「**KKKH**（言い分をよく聞く、共感する、一緒に考える、励ます）」を実行したらよい。親は、子どもの性格を叱るのでなく、その「行為」をいっしょに考えていく姿勢が望ましい。
- ② 近年「異年齢の関わり」が減ってきているが、  
私たちは何をすべきか？  
学校の「総合活動の授業」のなかで、たとえば1～3年生と一緒に芝居やスポーツをやるとか、放課後活動で一緒にできる遊びを楽しませるとかの工夫が必要。
- ③ 自尊感情を育てるには？  
行動がスローであってもせかさず、「ゆっくりやるのがお前の持ち味なんだよ」といって励まし、達成感を味わせながら育てていくのがよい。

### 【感想例】

- ① とても面白かった、なるほどと思う話ばかりであつという間に時間が過ぎてしまった
- ② 先生のお話はいつも勇気をもらいます。これで良かったんだ・・と思える余韻を残してもらい感謝！
- ③ もっともっとお話を聞きたかった、小さい子どものお母さんに聞かせてあげたかった